

建築学科			建築防災工学				
学年	第5学年	担当教員名	草苅敏夫				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	選択	履修単位
授業の目標と概要		過去に発生した自然災害や人的災害に関して学び、社会や環境に及ぼす影響を理解するとともにそこから得られる教訓を基に今後の防災計画・システムについて考えていく。このことから、防災の重要性を認識してもらうことを目標とする。					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-5	
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)		座学中心であり、ビデオ等の視聴覚教材により理解を深める。災害関連について新聞やテレビなどのメディアからの情報に気を付けていることや、Webなどを通じての情報検索なども行えるようにしておく。					
到達目標		1.日本での自然災害や人為的災害について理解することができる。 2.災害に強い街造りを考えることができる。 3.災害に対する建築的な取組みを考えることができる。					
成績評価方法		2回の定期試験(後期中間40%＋学年末40%)と4回程度のレポートの成績(20%)により合否判定を行い、判定結果(90%)に授業態度(10%)を含めて総合評価とする。					
テキスト・参考書		テキスト:防災工学(第2版)、石井一郎他、森北出版 参考書:地震と建築防災、小野徹朗編著、理工図書 地域・地区 防災まちづくり、三船康道、オーム社					
メッセージ		「天災は忘れた頃にやってくる」・・・災害を防ぐには個人個人が防災意識をもつことが重要です。日頃から防災について考えておきましょう。					
授 業 内 容							
授業項目				授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験							
前期期末試験							
1.災害の種類:(1回) 地震災害、風水害、火山災害、雪害 2.地震災害と防災:(6回) 地震発生メカニズム、震度とマグニチュード 地震の歴史、津波、地震対策				・災害の種類を学び、過去の被害状況の概要が理解できる。 ・過去の地震災害を再考し、今後の防災のあり方について考えることができる。			
後期中間試験				実施する			
3.風水害とその防止策:(2回) 過去の台風の特徴、風水害の歴史、風水害に対する対策 4.火山災害:(2回) 火山活動の現状、噴火による被害、防災対策 5.雪害:(2回) 雪に起因する被害事例、雪との共存 6.建設災害とその防止策(2回)				・過去の風水害の状況を再考し、今後の対策について考えることができる。 ・火山活動によって生じる様々な被害を学び、今後の対策について考えることができる。 ・過去に発生した雪による被害を学び、雪害に対する防止対策を考えることができる。 ・過去に起きた建築関係での災害とその原因を学び、防止策について考えることができる。			
後期期末試験				実施する			